

国有林モニター―現地見学会の開催

企画課

北海道森林管理局では、国有林野の管理・経営に国民の皆さまの意見・要望を活かすことにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理・経営を行うことを目的として、一般の方から国有林モニターを公募しています。モニターの方には、2年間の任期の間に、国有林についての情報提供や



モニター会議の様子（昨年7月）

イベントの案内等をするなど、国有林野事業についての理解を深めていただくとともに、アンケートへの協力やモニター会議への出席などをお願いしています。

現在は、平成28年4月から平成30年3月までの2年間、道内にお住まいの48名の方にモニターをお願いしています。平均年齢は56.6歳で、年齢層は20代から80代まで幅広く、職業も様々な方々です。このように、立場も経験も異なる方々に、森林や国有林に関心を持っていただけることは大変うれしいことと考えております。

平成29年度現地見学会

国有林モニター活動の一環として毎年現地見学会を実施していますが、今年度は、災害と防災に焦点を当てました。理由は、昨年の台風により、全道各地で未曾有の被害を受け、森林でも、木々が倒れ、林道や治山施設も多数壊れたことを踏まえ、近年の災害の状況と、災害からの復旧や防災の取組みを見ていただきましたと考えたためです。

この両方を見られる場所として、胆振東部森林管理署管内での見学を企画しました。

7月1日の現地見学会には、22名の方々にご参加いただきました。



風倒被害地の様子。根こそぎ倒れた木も。

当日は、集会所の苦小牧駅から風倒跡地へ移動するあいだ、小澤総務企画部長の挨拶に続き、小向胆振東部森林管理署長が管内の概要や車窓から見える風倒の被害状況について説明しました。

① 風倒被害地

一箇所目の見学地、風倒被害現場では胆振東部署の平尾総括森林整備官から、平成27年の低気圧による被害の概況と現在の復旧の取組等について説明を行いました。

風倒によって発生した倒木が木質バイオマスの燃料として利用され、現地では植栽や天然更新に



ドローンによる被災地の確認

よる森林の再生が図られていることを見ていただきました。

併せて、被害地の調査方法の説明とともに、GPSやドローン、輪尺などの道具を使って調査のデモンストラレーションを行いました。

② 治山事業実施箇所

二箇所目の見学地の樽前山麓の覚生川（おぼつぷがわ）上流部の治山事業実施箇所では、平井総括治山技術官等から、施設の目的や工事の内容等について説明しました。

樽前山は道内に9つある常時観測火山の一つで、噴火時の泥流等によ



覚生川上流部の治山施設見学



ダムによる効果の説明

る被害を軽減するためにダムを設置していることを説明しました。

③ 見学会を通じて

二箇所の見学をおえた質問の時間では、ダムの工法やダム周辺の緑化について、設計や工事の発注など、様々な視点から質問が寄せられ、森林に対する見方や関心は多様であることに改めて気づかされました。

また、現地見学会に参加された方々に後日お願いしたアンケートでは、今回の内容は回答いただいた21名の皆様全員から「良かった」との評価をいただき、「国有林モニタ

ターになったおかげで普通では見ることができない箇所を見られて有意



平成27年の低気圧による風倒被害現場

義だった」等の感想もいただきました。このほかには、風倒被害地では、「被害の広大さに驚いた」、「被害調査にかかるとのコメントが寄せられました。治山事業実施箇所では、「治山ダムを初めて間近に見た」、「ダムを国有林で造っていることを初めて知った」とのコメントがありました。現地見学会終了後の7月上旬に九州北部豪雨災害があり、「森林づくりの大切さを痛感した」と



モニターの方々と記念写真

いうコメントもいただきました。

来年度に向けて

来年度4月からの国有林モニターは、今年の12月頃に公募を予定しております。是非、国有林モニターにご応募いただき皆様のご意見を伺いたいと思います。

国有林モニターの公募は、北海道森林管理局の広報誌やホームページ及び市町村の広報誌などでお知らせを予定しています。